

学校教育課だより

かけはし

目的と手段について

教育監兼学校教育課長兼教育指導センター所長

鳥越 雅幸

平成二十九年がスタートしました。まとめ、振り返りとともに、新二学期制に向け、教育課程編成の時期を迎えました。

平成二十九年は、二〇二〇年度から順次始まる新学習指導要領実施に向けた準備がさらに加速していく年になると思います。

昨年、新学習指導要領の概要を示した中央教育審議会の「審議まとめ案」が公表されました。

グローバル化の進展、人口知能(AI)の飛躍的な進化、加速度的に変化する社会の中

で、資質・能力を確実に育む学校教育が求められています。「何を学ぶか」から「何ができるようになるか」どのよう

に学ぶか」への視点の転換の中で、三つの資質・能力が示されています。一つは、生きて働く「知識・技能」、二つ目は、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」、三つ目は、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」です。

そして、授業改善の視点としてアクティブ・ラーニングが示されました。私たちが陥りやすいことに

学校教育課だより
「かけはし」
【第 9 号】
平成 29 年
1 月 30 日発行
御殿場市教育委員会
学校教育課

目的と手段の混同があります。意識しないでいると知らない間にアクティブ・ラーニングそのものが目的になってしまっています。アクティブ・ラーニングが目的になってしまうと授業後の検証の視点が「今日の授業はアクティブ・ラーニングが成立していたか、あるいはアクティブ・ラーニングであったか」というものになっていきます。

また、アクティブ・ラーニングの視点の中に対話的な学びがあります。グループの話合いの場を設定すれば対話的な学びが成立するということではありません。何のためにこの学習方法で行い、何のためにこの学習形態でやるのかをきちんと押さえておくことが必要です。グループ学習が個人の協働性を育てるためのグループ学習になっている

か、活動の場をつくること、個の力を伸ばす場になっているかという問い直しが必要です。

アクティブ・ラーニングは目的ではなく、資質・能力を引き出すという目的に対する手段です。

少し前にも、国語の学習で、「単元を貫く言語活動」という言葉をよく耳にしました。

国語の言語活動として、パンフレットを作成したり、新聞を作成したりする実践が多く見られるようになりました。

これも目的と手段を意識していないと、パンフレットや新聞を作成すること自体が目的になってしまい、なんのために、どんな力をつけるために

行っている活動なのか見えにくくなってしまいます。

新学習指導要領が目指す方向性を見据える中で、目的と手段の押さえをきちんとしておくことが必要です。

「特別の教科 道徳」先行実施校

研究発表会に参加して

一月二〇日、千代田区立九段小学校で、研究主題を「特

別の教科「道徳」の先行実施問題解決的な学習・体験的な学習の実践と道徳授業における評価の工夫と全教育活動を通して道徳教育の推進と授業改善」とした研究発表会が行われ、参加しました。

九段小学校での道徳授業では、学習問題を提示し、その問題を他人事ではなく人間的に考え、自分の課題としてとらえ、そこからよりよい生き方を探っていくことができるような構想を練る。そのために、問題解決的な学習や体験的な学習を、児童観とその教材・指導観と照らし合わせて手段として設定する授業づくりが工夫されていました。

四年生の授業では全員タブレットをもち、書き込んだ児童の意見を先生が確認し、指名をうまくつないでいる授業が印象に残りました。

日常の取組、子どもたちの意欲の向上につなげる学びの振り返り、授業と評価の実践報告は大変参考になります。

研究紀要・指導案集が学校のホームページ上に掲載されていますので、是非、一読されたいと思います。

【主席指導主事 福島英子】

幼稚園訪問記

「「うちの子どもたちは

挨拶がすばらしい」

富士岡幼稚園の祖父母参観日に訪問をしました。会の最後に、「教育委員会から幼稚園指導員が来ています」と私の紹介がありました。

会の終了後、「先生、聞いてください」と町田市から参観に来ていた祖父母が話しかけてきて、「幼稚園児から中学生に至るまで、知らない人にも、いつでも元氣よく明るくあいさつしてくれます。とても気持ちがいいです。東京ではこんなことはありません。すばらしい土地柄です」とほめてくれました。

私は、「御殿場市では中学校区でまとまって同じ考えで子どもを育てようと努めています。『挨拶』も力を入れている取組の一つで、こうしてほめていただけるのは大変うれいしいです」と、答えました。園長先生は、「大変うれいしいことを承りました。小学校・中学校にも伝えたらきつと喜びます」と言いました。

教育はなかなか成果が見えにくいですが、このように

「子どもの姿」でほめていた
 だくことは本当にうれいしいこと
 とです。

「校長先生が、幼稚園に

また来てくれた」

小学校・中学校の先生方が幼稚園に来ることは最近、保護者にも広く知られています。今年度の教育論文に、

・多くの保護者が、小中の子ども同士が交流をしたり、先生が来て指導をしたりすることを知っている。
 ・地区の幼保小中が同じ考えで子どもを育てようとしていることが分かり、子どもが卒園して学校に入ることについて安心感がある。

という分析を載せていた研究
 がありました。

先日、原里中学校の土屋行
 広校長先生が幼稚園に来て、「みんなでまとまって行動すること」を指導してくれました。子どもたちも校長先生も裸足です。手指足指からの直接刺激を受けながら運動することが、脳や各種調整機能、協調運動機能などの発達を促すという、リトミックの考え
 方です。校長先生は、膝をつき、静かに語りかけ、自ら師

範し、大事な言葉は繰り返す
 など、丁寧に指導することで、

「話をしっかり聞くこと」のよ
 さ」を理解させていきます。

五・六人の幼稚園の保護者
 が後ろで参観していました。

保護者は「校長先生は以前も
 保護者の集まりに来て、「学校
 とは」というテーマで話をし
 てくれました。その話がよか
 ったので、また聞きたいと思
 い、今日も来ました」「本当に
 気が練れている校長先生です
 ね」「あそこまで丁寧に、やさ
 しく、粘り強く指導してくれ
 ることにびっくりしました」
 と語ってくれました。

「講話」「行事」「指導」「公
 開保育」などで小中学校の先
 生が幼稚園を訪れることが増
 えました。連携が進むにした
 がって「幼稚園は遊びの中に
 一人一人の学びがあるんだ」
 とか「これだけできる園児た
 ち、入学して赤ちゃん扱いす
 ることは間違いだ」などと
 う先生が増えてきました。

このような「子どもの姿」
 や「先生方や保護者の声」こ
 そが、今進めている中学校区
 連携教育の一つの成果ではな
 いでしょうか。

【指導員 勝又立雄】

教育指導センター訪問記③

授業参観と面談を通して、
 若手の先生方の授業力向上へ
 の意欲を感じます。そして、
 その思いを共有しながら、良
 い授業を目指す授業づくりの
 具体について考えています。

良い授業とは「子どもたち
 が目標とする力をしっかり身
 につけることができる授業」
 ではないでしょうか。良い授
 業にするためには、例えば「教
 材研究」や「課題の明確化」
 といった授業づくりのポイン
 トを理解し、実践を重ねて着
 実に自分の力としていくこと
 が必要です。

そうしたポイントの一つ、
 子どもが主体的に学ぶ姿が見
 られた授業を紹介します。

「子どもが熱く議論する」

印野小学校二年一組の算数
 の授業。学習課題は「 12×3
 の答えを早く正しく出す計算
 の仕方を考えよう」です。電
 子黒板での導入や思考を助け
 る大きな絵付きワークシート
 を活用して、しっかり自分の
 考えを持ちます。個の活動↓
 班の話合い↓全体学習と授業
 は進み、計算の仕方が三通り
 に集約されました。

① 二班は 4×3 と 8×3 に
 分ける方法を提案します。理
 由は出た答えを足す時に繰り
 上がりが無いからです。」

② 一・三・四班は 6×3 と 6
 $\times 3$ 。同じ計算が二つだから

③ 五・六班は 10×3 と 2×3 。
 10だと計算しやすいから。

それぞれに理由を述べて自
 信を持って主張します。続け
 て担任の小堀航志郎先生の
 「計算が一番早くできるのは
 どれでしょう」の問いかけに、
 「②は $8 + 8$ が繰り上がって
 早く計算できませんけど。」
 「①と③で迷う人に聞きます。
 0の計算が簡単では？」等々、
 疑問を投げ掛けたり質問した
 りして議論が熱を帯びてきま
 す。先生の出番はありません。
 そのうちに

「ぼくは③の考えに変わります。
 なぜなら10だと計算しやす
 いからです。」という発言が
 出てきました…。

生き生きとした議論の姿に
 惹きこまれる時間でした。教
 師はこうした授業の手応えを
 たくさん蓄積したいものです。
 子どもたちにとって真に「良
 い授業」を目指す授業づくり
 の力にしていきたいでしょう。

【指導員 岩田京子】